



月刊名工研

No.880

2025年9月1日発行

※NMIRI : Nagoya Municipal Industrial Research Institute

とびっくす

- 【巻頭言】 工業研究所は創立88年を迎えました
- 【特集】 Nagoya Musubu Tech Labの活動紹介
 - ・令和6年度の活動紹介
 - (Musubu会、セミナー、サロン、講演会)
 - ・登録方法について
- 【お知らせ】 ・みんなのテクノひろば2025 開催報告



工業研究所は創立88年を迎えました

副所長 木村 充江

工業研究所は、この7月1日に創立から88年を迎えました。奇しくも本号は創刊から880号となります。これもひとえに工業研究所をご利用いただいております企業のみなさまのおかげと、職員一同感謝いたしております。

工業研究所は、産業都市名古屋の発展の礎石として工業の奨励を徹底し、中小企業の技術刷新を図るため、昭和10年3月に名古屋市会が工業技術の指導研究機関の設立を議決し、昭和12年7月1日から現在の地において名古屋市工業指導所として業務開始したことに始まります。その後昭和19年4月に現名称となり、戦災による大半の消失や疎開などの苦難を乗り越えて今日に至っています。敗戦からの復興の時期に当たる昭和26年2月には、この月刊名工研が発刊されており、当時の記事からは、欧米の技術に打ち勝つための使命感、各界からの期待感がひしひしと感じられます(月刊名工研は工業研究所内の産業技術図書館で創刊号から閲覧いただけますので、是非ご利用ください)。また、高度経済成長期には、オートメーション化に対応するため、全国の公設試験研究機関では最も早く電子部門を設置するなど、時代の潮流に合わせてソフト・ハードの両面から対応できる体制をとってきました。最近ですと、平成30年3月には3Dものづくり支援センターを開設し、製品の試作支援等の強化を行ったり、令和2年11月にはNagoya Musubu Tech Labを開設して新規事業開発等に取り組まれている企業のみなさまにセミナー等の開催や試作機器、交流空間の提供等を行っているところです。

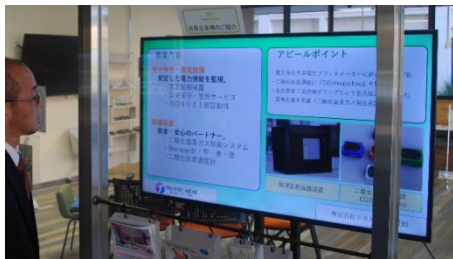
現在、コストの上昇や人手不足、米国関税への警戒感など難題が山積していますが、こういった時こそ確かな技術力が必要で、またそれが今の時代の不透明感に打ち勝つ強みとなります。そのためにも、これまで以上に「何かと頼りになる工業研究所」となるべく、職員一同研鑽を積んでまいりますので、今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

【特集】Nagoya Musubu Tech Lab の活動紹介

Nagoya Musubu Tech Lab は、「人×技術×情報をむすぶ 名古屋発のものづくり」をコンセプトに、新たにものづくりをはじめる企業を支援する施設です。

- ・新製品、新技術開発による新事業展開を行っている企業
- ・新製品、新技術開発を目指す中小企業
- ・技術系スタートアップ企業

を対象に、セミナーや交流会など各種イベントを開催しています。ニーズ及びシーズ技術のマッチングや各種の試作・試験用の装置もご利用可能です。



デジタルサイネージへの
企業紹介スライド掲載



会員企業のアイデア製品の
展示スペース“Tech LiBRARY”

■令和6年度の活動紹介

令和6年度に行った活動を紹介します。

◆Musubu 会

利用登録企業の方々に自由に参加いただき、講師や工業研究所職員と一緒に、協働による新製品開発を目指して、アイデア出し（アイデアソン）を行う Musubu 会を開催しました。柔軟なアイデア出しのため、多くの学生さんにも協力していただきました。

○第1回『ちょっと変わった素材で商品開発をしよう!』

ファシリテーター：清水 夏樹 氏 (Earth.)

参加学生：県立瀬戸工科高等学校専攻科 1年（6名）

☆シーズ発表：

「熱可塑性ビーズ発泡ポリウレタンについて」

山口化成工業株式会社 松倉 利夫 氏

発表いただいた資料をもとに、参加企業様と学生さん達とで商品開発に向けたワークショップを行いました。

「商品開発の手前において、大切な企業のパーパスについてまで話を膨らますことが出来た」と参加者の感想をいただきました。



会員のシーズ発表
発表者 松倉氏



学生さんに参加いただいて
ワークショップ開催

○第2回『Z世代からアイデアをもらおう!』

ファシリテーター：清水 夏樹 氏 (Earth.)

サブファシリテーター：小林 優太 氏

(RACCOLABO)、佐伯 陽介 氏 (SAEKI Business Economics Labo)

参加学生：広告デザイン専門学校（10名）

☆シーズ発表：

「竹粉配合プラスチック」

佐久間特殊鋼株式会社 川村 早紀 氏

「レーザー加工技術」

株式会社レーザテック 前田 好彦 氏

「ウレタンゲル素材」

イイダ産業株式会社 平松 正充 氏、居腑 楓 氏

☆アイデアソン

【イイダ産業チーム】SOFT :世界を優しさに溢れた社会に

【佐久間特殊鋼 チーム】UNIQUE :ユニークなアイデアで想いを伝える

【レーザテックチーム】 COOL :ブルーカラーってかっこいい

チーム毎にアイデアソンを行いました。各企業は素直な学生さんの考えに共感することも多く、有益な時間が得られました。

○第3回『木と紙でつくる地球へのギフト』

ファシリテーター：清水 夏樹 氏 (Earth.)

サブファシリテーター：中村 亜弓 氏 (伝統工芸工バンジェリスト)、青木 聖 氏 (ITフリーランス)

参加学生：名古屋造形大学 (5名) + 教員 (1名)

☆シーズ発表：

「各種紙加工技術」

株式会社中島紙工 中島 浩貴 氏

「木材の圧縮成形技術」

名古屋木材株式会社 竹田 博 氏、稲垣 貴大 氏

テーブルの上の木や紙などの素材を前にしながら、大切な人への『GIFT』という言葉から具体的なプロダクトのアイデアをディスカッションしました。アイデア出しに盛り上がり、「時間が足りなかった」などの感想もあり、今後の課題になりました。



清水氏の進行でアイデアソン

○第4回『新しい価値で実現する 脱大量生産と脱大量消費』

ファシリテーター：清水 夏樹 氏 (Earth.)

サブファシリテーター：稲垣 享一郎 氏

参加学生：広告デザイン専門学校 (1名)

☆シーズ発表：

「NC カッター & プラスチック甲冑」

森松株式会社 森 直樹 氏

「やさしいカミソリ」

日本利器工業株式会社 亀井 一輝 氏

「PLA 製製品 & 機能性インク」

大同至高株式会社 川瀬 康輝 氏

☆ワークショップ

ボードゲームを使ったダジャレノベーションを行った。甲冑×カフェテリアで「カチュeteria」などの新語を遊び感覚で楽しくアイデアを出し合いました。

◆セミナー

新たな製品を企画したい中小のものづくり企業やスタートアップ企業の方々に役立つ、最新の技術と新たにものづくりに成果を上げた事例を、セミナー形式でご紹介する勉強会を実施しました。

○第1回『顧客に愛され、成長する事業計画の描き方』

☆講演：

「『共感』時代の新事業構想とは」

一般社団法人 龍馬の靴 高橋 綾太 氏

「新規事業創出への取り組み事例」

高木写真 高木 菜乃 氏

「ターゲット別の有効的な広告戦略の仕組み」

株式会社 KIEN 各務 詩月 氏

「SNS等を活用して自社の熱狂ファンを増やす」

合同会社ペテトテ 白井 恵奈 氏

“ものづくり中小企業に聞いてほしい” マーケティング戦略！の成功事例を紹介いただきました。「新しい挑戦として事業を行う際の参考に致します」など、参加者には好評でした。

○第2回『ドリーム DX』

☆講演：

「DX を使ったビジネスモデルの変革」

ピノベーション株式会社 鳥羽 伸嘉 氏

「DXの第一歩！安くカンタンなDX事例紹介」

株式会社 HALO 鵜飼 幸子 氏

セミナーでのディスカッションを通して、より具体的な DX 施策を勉強しました。

○第3回『連携とイノベーションの力』

☆講演：

「中小企業におけるデザイン経営」

きづきデザインラボ 竹綱 章浩 氏

「技術を出品する製造業のフリマサイト
ASNAROで目指すもの町工場が主役の新しい選択肢」

ASNARO創業者／株式会社丸菱製作所
戸松 裕登 氏

「むすぶ力で地域活性化にチャレンジ」

株式会社 musubun 鈴木 萌芽 氏
企業間連携のメリットや実際の進め方について、成功事例を交えて紹介いただきました。
「3件ともユニークな内容ながら、連携での共通点があった。」などのご意見があり、参考にさせていただきました。

○第4回 「ヒット商品開発者に学ぶ！」

☆講演：

「日常使いできる防災用品の開発秘話」

株式会社メイダイ 増田 誠児 氏

「心を育くむ体験とワクワクを提供するモノづくり」 聖新陶芸株式会社 伊勢谷 智起 氏

「小さな企業が市場で勝つための新商品開発」

株式会社大醐 後藤 裕一氏

アイデアを“カタチ”にするうえで、苦心していること、商品化する上でぶつかる課題やそれを乗り越えるためにどうしたらよいかなど、実際の開発現場で感じることを紹介いただきました。



講演会後に商品展示を挟んで、参加者と講演者の交流を深めた

◆サロン

既存の概念にとらわれず、ユニークな発想を取り上げ、ワークショップや座談会形式で、新たな製品開発について、勉強会を実施しました。

○第1回『新規事業の立ち上げ方』

☆講演：

「顧客起点型の新規事業立ち上げプロセス概論」 Spready 株式会社 野口 研二 氏

☆ワークショップ&質疑応答

コア技術の再確認・差別化要素、関心の高い領域の選定について、講師を囲んで参加者の皆さんとアイディエーション（アイデア出し）ワークを行いました。

○第2回『感性工学で明らかにする魅力的な商品開発』

☆講演：

「感性の分析に基づく新商品開発」

名古屋経済大学 神邊 篤史 氏

☆座談会：『欲しい！』と請われる商品を創るための方法論

感性価値の創造により、感性ニーズに応える製品の設計開発、感性・感情状態に合わせたインタフェースの提供など、感性価値の創造により、顧客が感動する製品に繋がることを教授いただきました。

○第3回『多脚ロボットの魅力を知ろう！』

☆講演：

「多脚ロボット発展の背景と開発の最前線」

南山大学 稲垣 伸吉 氏

☆座談会：多脚ロボットのコア技術と事業化に何が求められるか？

開発している多脚ロボットの魅力や、開発にまつわるアレコレについてお話いただきました。「おもちゃロボット、将来の



紹介いただいた多脚ロボット

モビリティ、人間の近づけない場所での作業ロボットの説明など知らない世界の内容に対して、第一人者の話が聞けるのはありがたい」などのご意見をいただきました。

◆講演会

Nagoya Musubu Tech Lab の活動の成果報告も兼ね、また新たに多くの企業に参画いただくために、年度末に講演会を開催しました。

○講演会

『新しいコトは面白い! 新事業創出の魅力』

★特別講演:

「ブラザー工業の新規事業とオープンイノベーション」

ブラザー工業株式会社 安井 邦博 氏

☆講演:

「Nagoya Musubu Tech Lab の活動紹介
と来年度計画展示棚紹介」

名古屋市工業研究所 岸川 允幸

「Musubu 会で行われてきた事例の紹介」

モーリスデザイン研究所 森下 眞行 氏

「社内起業はひょんなことから始まる」

新東Vセラックス株式会社 高山 敬 氏

「1社で出来ない社会課題を共感者と解決する! ~ものづくりパートナーズ~」

大矢伝動精機株式会社 大矢 顕 氏

☆パネルディスカッション:

パネリスト: 戸松 裕登 氏(ASNARO、株式会社丸菱製作所)、高山 敬 氏、大矢 顕 氏
コーディネーター: 山岡 充昌 (名古屋市工業研究所 所長)

特別講演では、安井氏より自社の事業ポートフォリオの变革を紹介いただき、新規事業へのいくつか



講演者 安井氏

の提言をいただきました。講演では、「仕組み構築で社内提案を促進」「事業精査による社内起業」「他社との協力体制構築」について各講師からお話をいただきました。パネルディスカッションでは、ものづくりパートナーズのような他社との協業をどう考えるか?ものづくりに関わる人が関われる社会課題として、今後注目されていく分野はあるか?新規事業が始まって、どのくらい面白かったのか?などを、パネラーから回答いただきました。開催最後に名刺交換会を開き、お互いの親睦に繋げていただきました。



パネルディスカッション

◎登録方法について

会員限定イベントである Musubu 会に参加いただくと、新しいアイデアや商品に繋がります。また、異業種の方との交流ができます。ぜひご登録・ご参加ください。

登録方法

- ①-1 Nagoya Musubu Tech Lab 専用ホームページの右上「会員登録」をクリック

HP: https://www.nmiri.city.nagoya.jp/musubu_lab/

- ①-2 あるいは右の二次元コードから会員登録ページへアクセスください。



専用 HP 右上部分

- ② 「会員登録完了までの流れ」をお読みいただき、登録フォームから必要事項をご記入いただき、お申込みください。
※手続きは「仮登録」と「本登録」の2回行う必要があります。
※自社技術の PR を希望すると、入り口にあるデジタルサイネージで企業紹介スライドを流すことができます。



二次元コード(会員登録ページ)

- ③ 事務局から利用規約兼同意書をお送りいたしますので、所属の代表者様に同意書へご署名いただき、原本を郵送またはご持参ください。

【お知らせ】

■一般公開「みんなのテクノひろば 2025」開催報告

当所の一般公開「みんなのテクノひろば 2025」を、令和7年8月13日（水）に開催しました。事前予約制で4つのものづくり教室と研究所の装置見学を企画・実施しました。小学校4年生から中学生の方々に化学実験、電磁工作、金属加工、AIを体験していただきました。4年生より下のお子様にも見学に参加いただきました。初めての実験や製作に皆さん頑張っていたいただきました（写真）。体験後のアンケートでは、「おもしろかった」「科学に興味を持てた」との多くの感想をいただき、科学やものづくりの楽しさを持ち帰っていただきました。ご参加いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

当所では、当地域の中小企業などへの技術支援を行っております。このようなイベントを通して「ものづくり企業のパートナー」である当所を広く市民の皆様を知っていただくよう、積極的にPRして参ります。



皆様、真剣にチャレンジしていただきました。

（編集・発行）

名古屋市工業研究所

〒456-0058 名古屋市熱田区六番三丁目4番41号

電話：052-661-3161 FAX：052-654-6788

URL：<https://www.nmiri.city.nagoya.jp>

E-mail：kikaku@nmiri.city.nagoya.jp